
壊された世界の壊れた人たち

赤倉 石人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

壊された世界の壊れた人たち

【NZコード】

N8739L

【作者名】

赤倉 石人

【あらすじ】

オカルトと呼ばれるものが衰退し、SFにすら発展しそうにないまま戦争とかで滅びそうな世界。

そんな世界を神は力づくによつて改変し、一つの物語が幕をあける。

主人公に成り行く人が消された物語が。

プロローグ？（前書き）

始めて。

赤倉石人と申します。

この作品は私の処女作であり大変見苦しいものと思いますので、ご批判・アドバイスじゅんじゅんお願いします。

また携帯からの投稿、不定期更新になりますのでご了承おねがいします。

プロローグを追加しました

プロローグ？

主人公とは何なのだろう？

考えるまでもない。

物語の主要人物にして、物語で欠かすことのできない人物、それが主人公だ。

少しならまだしも、始まりから終りまで出てこない人物を、主人公と呼べはしない。

じゃあ自分は？

その問い合わせて、違うと即答できるのは、脇役としての悲しい性だろうか。

とりあえず、始めて。

私の名前は、田中太郎。

ただのしがない脇役にして、この物語の語り部でござります。えつ、誰に話しかけているかって？

ほら、あなたですよ、あ・な・た、ハート。

ごめんなさい。自分でやつてて、正直死にたくなりました。

「おーい、そろそろいかのう、篠崎純也。」

「うるさい黙れ、僕は現実逃避に忙しいんだ。」

前に立つ爺がうるさいです。人が現実逃避にいそしんでる時に話しかけないで貰いたい。

えつ、名のつた名前が呼ばれた名前と違うって。

初対面の人には偽名を名のる、それがマナーです。次のテストに出来るから覚えときなさい。

「いい加減、現実に戻ってきて欲しいんじゃが。」

「田の前で手を振るな、鬱陶しい。」

しかし、まことに残念ながら爺が言つてゐる事は正しい。いい加減、あの喋り方も辛くなつてきただしね、キラッ。

あー、ゴホンッ。別に自分の痛さに悶えてたわけじゃないからね。とりあえず話を変える事にして。

僕、篠崎純也が、何故あそこまで現実逃避にいそしんでいたか、話は少し前に遡る。

とまあ、そんなに都合良く回想編に突入するほど、現実は甘くなかつた、まる。

しようがないから、自分で現状を説明しましょう。

中流家庭の、ごく平凡的な男子中学生の部屋。

机やテレビといった、当たり障りのない物が置かれた部屋には、なんかやたらと偉そうな爺と、それに対面するようにいる犬が存在していた。

もう一度言おう。

偉そうな爺と、犬がいた。

さらにもう一度。

犬がいた。

「そ、うなんだよ、犬なんだよ。なんで僕が犬になつてんだよー！」

「いや、散々わしをキ ガイあつかいしたんじや。当然の報いじやろつ。」

「当然の報いじや、じゃねー。いきなり人の部屋に入つてきて神を名のる人間がいたら、とりあえず警察を呼ばうとするのは当然だろ。」

「

そう、目の前の爺はゲームをやつていた僕の前にいきなり現れ、神を名のりだしたのだ。

しかも、そのせいか知らないけどゲームはフリーーズしてしまい、僕の五時間に及ぶ努力がすべてパーになつた。

それにブチギレ、散々キ ガイ扱いし、警察を呼ばうとしたら犬にされてしまったのだ。

と、そこで僕は気づく。

あれつ？ 犬になつてゐるのに、普通に日本語しゃべつてないか、
僕。

うわ、やべー。さすが僕クオリティー。

犬になつても日本語喋れるとか、もうテレビに引っ張りだこだね。テレビ出演料やらなんやらで僕の人生、いや犬生うはうはだね。

「何故か勘違ひしているようで悪いんじやが、お主が喋れるのは、わしがそ、うなるようにして、いるからじやぞ。あと、お主、冷静になつてるように見せかけて、実は冷静じやないじやろ。」

な、な、な、なんだつてー。

僕が喋れるのは、僕クオリティーじゃなくて、爺クオリティーのせいだと。

それなら、この爺が喋れないようにすれば、僕は話すことができないのか。

終わった、僕の将来設計が。

ならばせめて犬らしく文句を言つてやる。

「ウー、ワンワン。」

さすがだね、僕。

今のはもう、どこに出しても可笑しくないくらい犬らしい吠え声
だった。これでもう、犬としての一生を歩めるね。

「つて歩んでもうする！」

「お主、犬みたいに吠えたり一人漫才したり、一体何がしたいんじ
や。」

うん、自分でもよくわからないよ。

「で、話しを戻すとして、現実問題いきなり神を名のる人物が出た
ら、キガイ扱いするのは当然だと思うんだけど。」

「いや、現在進行形で1000万人近くの人間が信じているんじゃ
が。」

ブフッ。

「いや、信じすぎだろ。どうなつてんだよ世界の人々。なに、疑お
うとかそういう心は存在しないの！」

「逆に信じない人間がいたことに、わしは驚いてるんじゃが。」

いや、そういわれても。いきなり、後光を差すやたらと偉そうで
長い白髪をした、白いローブ着て木の杖を持った爺が何もない空間
から現れて、自分を神と名乗つても誰も信じないだろ。

……あれ、この爺、神じやね。

うん、冷静に考えるとす「」。神っぽい。

「申し訳ありませんでしたー。」

そりゃあもつ、全力で土下座を開始する。

「フォツフォツフォ、わかればいいんじゃよ、わかれば。」

「いやあ、本当に申し訳ありません。まさか、貴方のような方を変態糞屁キ ガイ爺呼ばわりするなんて。」

「つてお主、わしのことをそう思つてたのか。」

「いやあ、そんな、変態糞屁てゆうか屁長すぎてキモいんだよ頭大丈夫かキ ガイ爺、なんておもつてませんよ。」

ゲームをフリーズせられて、犬にされた恨みもあつてか思わず口にでる本音。

そんな僕の本音に、神はピキッ、と青筋を立てていらつしやる。
やばい。どうやら言い過ぎてしまつたらしい。これ以上変なのにされたくない。

「いやあ、冗談ですよ、冗談。イッソアメリカンジョーク、みたいな。」

「いや、何も言わんでも大丈夫じゃよ。お主がわしの事をどう思つているかよくわかつた。」

「えーと、できればその杖を下ろしてほしいなー。」

「駄目じゃ 蛙になれ。」

僕の悲痛な訴えも虚しく、振り下ろされる杖。
ボフンッ。

そんな音とともに煙に包まれながら、僕は思つ。
カルシウム取れよ、キチガイ爺。

あつ、伏せるの忘れた。

プロローグ？（後書き）

書く事が思い付かない。o r t

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8739/>

壊された世界の壊れた人たち

2010年10月17日09時13分発行